

# ふてしこ

12 '20  
No.301

巡回通信誌



じゅうにひとへ

## 十二単衣

かんぱつ さいき さやあて  
煥発なる才気の鞘当

名誉院長 西田 敬

日本文学に詳しいDonald Keeneが  
驚愕したのも無理はない。紫式部と清  
少納言が、雅なる宮中で、才気煥発ぶ  
りの鞘当を演じていた頃は、西洋文学  
では千古万古のShakespeare(1603)  
が生まれる半世紀も前に遡る。

紫式部、日記中で清少納言を痛罵す  
る。

平安時代(794-1192)を回顧して  
見ると、貴族が政権を持ち、摂関政治

が支配。初期にかな(仮名)が発明  
され竹取、伊勢、源氏物語や枕草子  
などの佳作が犇めく。何と云っても  
紫式部と清少納言は二大女流作家。

紫式部は清少納言を、必ずしも、  
お気に召していない。性格や容貌、  
容姿の相違点が原因かも知れぬが、  
今更、検討のしようが無い。豈図ら  
んや、式部の思いは、御本人の日記  
に書残されている。

嫺やかなる女性、茲は妍を競って  
戴きたい。それどころか、言葉の綾  
を尽くして罵る。曰く、その仇に為  
りぬる人の果て如何でか良く侍らむ。  
(碌な死に方はすまい、トハ聊か手  
厳しい)。

ともあれ1000年を経て、昔のゴ  
シップを今に伝えようとする。将に  
人間の口に戸は立てられぬです  
なあ！

